

「自ら意欲的に学び、発信する学校づくり」のための新聞利用のあり方

上田市立川西小学校 水 野 哲

I はじめに

上田市立川西小学校は、上田市の西方、宅地開発が進みつつある小泉・仁古田・岡の平坦地と室賀の谷を校区に持つ、全校児童300名余り・各学年2学級規模の小学校です。

本校は、室賀・浦里・小泉の各保育園出身の児童を核としながら、10近くの保育園・幼稚園から子どもが集まり、「よく学ぶ子ども・美しい心・たくましいからだ」を学校目標として学んでいます。

高学年の児童が低学年の児童の面倒をよく見、一緒に仲良く遊ぶことが伝統となっており、友だち同士仲良く過ごすことができる子どもたちです。しかし、自分の気持ちを素直に表現することが苦手だったり、よりよく伝えようとする意欲が少し弱かったりする面があり、それを改善しようと昨年度までの2年間、表現力を高めるための研究と実践を続けて来ました。

その成果と課題を受け、より積極的に思いを発信する力を高めていきたいと願い、平成17年度より「自ら意欲的に学び、発信する学校づくり」をテーマに研究をすることとなりました。同時に、NIEの実践校として指定を受け、2・4・6年生の担任が1名ずつ推進役となり、日々の学校生活の中に新聞を取り入れ、上記のテーマの達成に結びつく学習が成り立つよう研究を進めて来ました。

II 実践の概要

- (1) 職員に対する、授業に利用できそうな新聞記事の紹介・活用のあり方の提案
- (2) 2・4・6年生における授業、学校生活での新聞活用のあり方の研究と実践

本年度は、新聞をどのように利用できるか、どのように授業・学校生活に組み入れていくかを試行することを中心に実践してみました。

III 実践の内容

1 職員に対する、授業に利用できそうな新聞記事の紹介・活用のあり方の提案

実施の方法と成果

17年度NIE実践校に指定を受け、9月から新聞を下記のように配達していただきました。

新聞名	9月	10月	11月	12月	1月	2月
朝 日	○	○	○	○		
毎 日			○	○	○	○
読 売			○	○	○	○
日 経		○	○	○	○	
産 経		○	○	○	○	
信濃毎日	○	○	○	○		

できるだけ長い間、多くの新聞に触れられるように、なるべく多くの元旦号の読み比べができるようにと考えたからです。

会合で、前年度までの実践校の発表をお聞きし、まず教職員が新聞に慣れ親しみ、活用へのヒントを得られることが第一と考え、新聞は、すべて職員室に隣接した休憩室に係が並べて置き、一日が終わると職員室廊下に新聞ごとに積み上げていきました。

係は、毎日配達された新聞に目を通し、授業に取り上げることができそうな記事があると、研究通信に紙面を掲載したり、職員朝会などで連絡したりして新聞の利用が少しでも高まるよう手を尽くしました。

各紙の紙面は、取り上げられた記事やその軽重などそれぞれに特色があり、政治・経済・社会的な記事を比較すると大変おもしろいのですが、そのような学習場面を組むことは、小学生にはかなりむずかしく、無理ではないかという感じになってしまいました。

教育・文化面での記事は、教職員向けとして研究通信で紹介していましたが、これも各紙それぞれに特色があり、参考になりました。

1紙だけをとっていたのでは触れることができなかった資料を得るなど、たくさんの新聞を同時にみせていただくよさを実感できました。

研究通信抜粋

NIE関連ニュース1

10月より朝日・信濃毎日に加え、産経新聞・日本経済新聞が配達されます。

市立図書館へでも毎日行かなければ、新聞の読み比べなどできないと思いますが、その社説・論調は、各社ともかなりの差があり比べて読んでいただければそのちがいがはつきりしてくると思います。それを心に置きながら、日々の授業に新聞ネタをお話いただけるだけでも効果があると思います。(中略)

なお、低学年でのNIE授業で一般的な題材は、① 四コマまんがのせりふを白く塗りつぶし、そこに言葉を入れてみる。

② 一コマ一コマばらばらにして並び変えてもらう。③ 全員に一日分の新聞を配り、好きな一ページを抜き出して自分の読める漢字に○をする。 などがあるそうです。(後略)

NIE関連ニュース2

先日、古い東山道の跡が、発見されたというニュースがありました。場所は、間島商会さんの道を進んで、農免道路に出る手前右のアパートの東の田んぼです。新しく工事をしようとして掘り返したところ、重機で掘ろうとしても簡単に掘れず、気づいたそうです。ていねいに掘てみると幅10m、左右にそれぞれ2mの側溝があるような粘土などできっちり固めた道路あとがでできました。(残念ながらもう埋め戻してしまいました。)

古代にこれほど大きな道路があったとは驚きだと思いますが、それが川西小学校をかすめるようにして、岡方面に延びていたようです。どこで浦野川を渡ったかなど考えるだけでもうきうきしてくるような気がします、いかがでしょうか。

今朝お配りした地図の中に線が引いてありますが、これが推定の東山道です。まさかこれほどまっすぐだとは簡単には思えませんが、今の高速道路のようにほぼ直線で作られていたようです。(後略)

課題と対応

このように対処してきましたが、本校でのいくつかの課題も見えてきました。

- (1) 職員休憩室に新聞を置き、校内の先生方全員が比較対照できるようにしましたが、実際には他の先生方に読んでいただく時間が確保できず、係が学校の様々な仕事を終えた後(または、それを後回しにして)1時間以上比較しながら読み、関係ある記事を紹介していくという形に留まってしまうことがほとんどでした。また、ある単元で利用したいと思う時には適当な記事が見つからず、いい資料があった時には単元の時期とずれているということが多く、思ったようには使えないという感じが強くなってしまいました。
- (2) 日々の通常の授業内容をこなしていくのに時間が必要なので、新聞を生かした、1回数時間を使うような単元を今のままの単元構成の上に組み入れていくことは大変むずかしいという面がでできました。
- (3) また、子どもたちに新聞が届くのが遅れてしまう、図書館には、6紙を置くスペースがないなどの問題もあり、新聞の活用のあり方を変えていく必要があると考え、途中から、係が内容をさっと見て特に使えそうな記事があるかを見た後、朝のうちに対象学級に1紙ずつ配布するようにしました。

2 2・4・6年生における授業・学校生活での新聞活用のあり方の研究と実践

(1) 2学年での新聞活用の実践

2学年の実態

24名の対象クラス内で、新聞との関わりを聞いてみたところ、14名が家庭で地方紙であるA紙を購読し、約6名が全国紙のB紙、1名が全国紙C紙、残り3名が新聞を取っていない家庭でした。予想通り、家庭で新聞を見る子の多くは、テレビ番組欄、4コマまんがを読み、ほかは写真を含めてほとんど見ないということでした。

ご存じの通り、2学年の漢字能力では、読める内容は限定されています。しかし、興味関心のあるテレビ欄の内容でクイズ形式の問題を出してみると、前後の仮名文字や数字・テレビ局名などから総合して推理し、既習内容以上の漢字を「読むこと」ができました。

これらの実態を生かし、上記のようなテレビ欄を利用した「文字探しゲーム」を、全校で楽しむ児童会主催の「川西小まつり」で、放送委員会が実施し、1年生を含む60名以上の子どもたちが楽しむことができました。

そして、2学年の場合は、新聞に親しみ、自分の感想をメモし、友だちに伝えることを第一の目的に授業を実施することにしました。

授業の実際

① ねらい

子どもたちが、新聞の中から自分で興味関心をもった写真やイラスト・広告を選び出し、それを選んだわけをお互いに紹介することを通し、自分の思い・感じたことを伝える力を高めたり、友だちの感性のよさに気づいたりするとともに、新聞への興味・関心を高めることができる。

② 実施時間

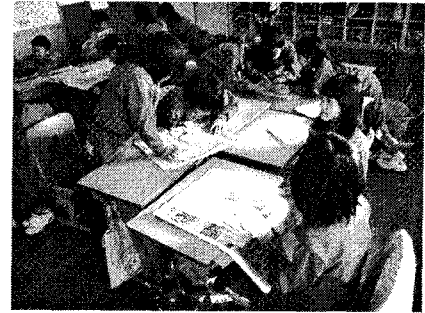
初回に限り、2時間（90分）。以後、1回につき45分で、月1回実施した。

③ 展開の実際

学 習 活 動	活 動 の 実 際	備 考
新聞の中からお気に入りの写真やイラスト・記事を探そう	1 1ヵ月分の新聞を用意し、全員に1日ずつ配布する。 2 「配られた新聞の中から気に入る記事や写真・まんが・イラストを探そう」と声をかける。 3 その新聞(1日分)の中にいいものが無い場合、それを教卓に持ってきて、残っている新聞と交換して探すよう指示する。 4 選んだ「記事」を切り抜く。	用意するもの 1ヵ月分の新聞紙 はさみ・カッター のり付付箋紙 (コメントカード)
選んだわけをメモカードに記入しよう	1 選んだわけを付箋紙に簡単に記入する。 2 書けないでいる児童には、個別に話を聞き、書き方を指示していく。	
自分の選んだものを友だちに発表しよう。	1 1回目は、全体の前でしっかり書けた子の「記事」を中心に紹介していく。2回目以降は、グループでの発表なども取り入れ、なるべく多くの児童の「記事」を紹介していく。 2 担任は、それぞれの子の発表後、選んだよさを認め、いろいろな観点で「記事」を選ぶ楽しさを高めるようにする。	・4コマまんがを選んだ子には、後で他紙の4コマまんがと比べてみるように促す。
発表を聞いた感想を発表しよう。	1 友だちの発表を聞いての感想をカードに書いたり、発表したりする。	感想記入カード

④ 成果と課題

- ・上記のような展開で、初めは2時間をかけ実施しました。やり方の説明、記事や写真・イラスト・漫画もいいということを説明しても「本当にそれでいいのか」という感覚もあるようで、なかなか選べなかったのですが、二度三度やるうちに意欲的に短時間で選択できるようになりました。
- ・はじめは、新聞紙を他の学級でもあとで利用できるようにという願いから、ていねいにカッターで切り、もとの位置に戻せば裏面もコピーして参照できるよう位置も確認できるように印をつけ、感想とともにクリアファイルに入れ、とかなり気をつかいました。しかし、限られた時間の中で、このような利用をするならば、裏面についてはあまり気にしなくてもよかったので、感想記入用紙に直接貼りつけるようにしていき、時間短縮を図りました。
- ・やってみると、十分に漢字も読めないのに、お隣の土田六中の着物ファッションショーの記事を選んだり、愛知万博関連のアンケートを持ってきたり、松本出身の草間弥生さんの作品展を選んだり、その感性のよさに感心するとともに、クラス全員で「2005年〇月の記録」といったものに仕上げることができました。
- ・はじめのうちは、テレビ欄・4コマ漫画などが中心でしたが、このような活動をくり返しやってみると、次第に新聞の他のページをみることへの抵抗感がなくなってきました。二月のころの実践では、身を乗り出して記事を探す姿も見られました。また、友だちの好きな記事・写真・イラスト・漫画などを知ることを通して、さらに仲よくなるといったよさができました。
- ・17年度は、人権感覚を向上させる研究も並行して行っており、「相手を知る＝相手を大事にする」をモットーに、これらの新聞を活用した学習のほか、様々な学習の場面で、友だちの学習のよさを担任が紹介したり、お互いにそのよさを理解し、発表したりする場面を増やしました。これらの活動の成果なのか、図工・音楽などの鑑賞の場面で思わぬほど詳しく感想を書く子が少しずつ増えてきました。



華やかな着物が会場を沸かせた土田六中のファッションショー
05.9.24
土田市の土田六中
校三年生女子約四十人
が二十三日に開いた同
中文化祭で着物や浴衣の
ファッションショーをし
た。あややかな着物とか
わいらいしさが、保
護者生徒たちの目を楽し
ませた。
ステージに立ったの
は、総合学習で日本文化
を学んでいる生徒たち
五月から同市着久保で着
装教室を開く関和子さん
の指導で一回程度、礼
儀や着付けを練習してき
た。この日の衣装は関さ
んが用意した。
浴衣を着た生徒たちは
前列と後列に分かれ、交
互に後列が別の帯の結
び方を覚えて見せた。華
やかな柄の袴はあまの
生徒たちは袖振振り
お披露出し、会場か
ら拍手を送られていた。

わたしは、どうしてこのファッ
ションショーをアゲたのかわ
たいはあきものがすくすき
たからえびました。
せひみてくたす。



こはみすたまよせ
おれんしていつな
きうてさうい
くしてすういとお
あさ花のははき
あさいよつす
からせひ見てくた
す。

4・6年での新聞活用の実践

4年での活動は、主として、朝の学級活動の時、気になる新聞記事を紹介するというものです。6年での活動は、この活動に加え、総合的な学習で、「栽培活動」と「戦争と平和問題を考える」をメインテーマに学習を進め、それぞれの学習の中で、新聞を積極的に利用しました。また、近くで古代東山道の遺跡が発見されたとの新聞記事を見つけると、そこへ見学に行くなどして、新聞記事を日々の学習の中に取り入れるように工夫を重ねました。

① 朝の学級活動での気になる新聞記事の発表

朝の学級活動の時間、児童が気になる記事を選んで、発表するようにしました。

4年生は、当番の2人がそれぞれに記事を選んで、スピーチタイムに発表するようにしました。

6年生は、1人が記事を選んで、スピーチタイムでの発表をすることとしました。

また、その日の記事に気に入ったものがない場合、職員室廊下においてある新聞より選んで、発表するということもしました。(原則として1週間以内の記事)

12月12日

今日のニュース

名前 T. N.

ニュースの集出し

証券巨額注文ミ入

ニュースの要旨

(おおよその内容 短(まとめよう))

みずほ証券は、昨日、東京証券取引所マザーズに同日上市した、大村サバビスのジェイコム株取引で、大規模な注文ミスをしたと発表した。

本来「61万円で1株」という売り注文を「1円で61万株」と誤って入力したとみられている。

感想

インターネットに「6万円で1株」と書こうとした晩
「1円で6万株」と入力した人も、とんでもないミス
をしてしま。たかひ、大バツととうけたと思いました。
1円で6万株ももらえろなら、何にも買いたいと思った

11月29日

今日のニュース

名前 S. S.

ニュースの発出し

恐ろしくて悪霊

ニュースの要旨

(おおよその内容 短(まとめよう))

恐ろしい形勢でいかにいのは、オーストラリアで
 古くから伝わる悪霊「クラング」+「ルツ」の交配の
 町「ライン」でクリスマス前の時期に行われた祭りの一幕で、
 カタクローズと悪霊を追い払うとか。あまりの可愛さに加
 池川ミズ

感想

オーストリアでこんなことをするなんてびっくりしました。
この悪霊には、のちに何日寺に参りかかるといふ約束と、思ひ
ました。

12月7日

今日のニュース

名自 Y N

ニュースの発見

新種? 肉食動物発見

ニュースの要旨

(おおよその内容 短(まとめよう))

インドネシアのボルネオ(カリマンタ)島で、ネコより少し
 大きい「新種」の内食動物が発見された。世界自然
 保護基金(WWF)が6日発表した。この動物は2008年
 に初めて報告された。これまで、一匹としか
 報告された。生きたまま、赤手をとおめぬ。現地に

感想

ホルネ島でネコのような新種の動物
がみつかり、いまではいたのか
と聞いて、いまだに長いひびき
を聞かれています。

私のえらんだ 今日のニュース

8月29 日 名前 (O. K.)

見出し・内容

平城京南に成つた。とうとうにはついに
当初計畫でとうとう
平城京のなかに建てたお城が大路の南で、
とうとうにはついに平城京の南で、
うーかんかうていさうざういさうさう
なうとて、うーかんかうていさうざういさうさう
感想 四の五の広げたに、かんかうていさうざういさうさう

感想

前夜ほどおいしく、計かくおていたため
おいしい

かゝる
*みなみに店してむらくりしつゝな
せ*みなみに店したのか
+条まひけいかんもいふむらり

② 6年生の総合的な学習に関わって

6学年では、4年時から、栽培学習と、「川西の宝」を探る学習をメインテーマに総合的な学習を展開してきました。

その中で取り組んだ白菜栽培からキムチ作りをしようと学習が発展し、近くに住む韓国出身の方に作り方を教えてもらいました。その方のお話から、日本が起こした戦争について知ることとなり、「戦争と平和に関わる学習」を継続的に進めていくことになりました。

6学年では、7月の松代大本営への見学をはじめ、学校そばの戦争遺跡、仁古田の地下飛行機部品工場跡へ行くなどして学習を深めていきました。

その中で、新聞の中から記事を見つけ、クラスの中で紹介し合い、感想を発表し合っていました。



戦争について 6年2組 (Y.R.)

1. サイパン島の戦いについて (知っていた 知^りた)
2. この記事を読んでの感想
私は昔、戦争が世界中であったことは分かってはいたけど、今も60年たつて、中身をどんでん聞いてくと、悲しくなりました。よく大池さん達は大変な話をしてくれました。大池さんは、40人中たった一人しか生き残っていません。その後、命がけでこわがたと思いました。しかも、まだ私達と一緒にいるのに、私ならこめて、すぐにサテライトに思いました。そして今も、中国とか韓国で日本の歴史のことを、言いきかそう。戦争のいかなる思いが、もっと深まった。

6-2 K.W.



戦争中、女の人には子どもが年寄りのお婆さんをして、飛行機が来た時、電線に黒いぬのをかざした。食べ物はずっとおまんこをこぼして、仁古田に飛行機製作場を作った。飛行機がかりこの油を根油をとりに行き、それを使った。道の工に大豆をまきしょうかつした。さうの代わりにさとうきびを使った。

担任も事前に情報を入手し、準備はしていましたが、子どもたちが毎日交替で新聞を見る習慣をつけていたので、子どもたち自身が記事を発見し、見学に行けたという感覚を持つことができました。

Ⅳ 今年度の実践の成果と課題

本校の研究テーマ「自ら意欲的に学び、発信する学校づくり」の実現のために、事象との感動的な出会いの場面を設定し、充実した体験を積み重ねるとともに、学校生活のあらゆる場面で自分の思い・願いをよりよく表現する力を身につけ、保護者をはじめ地域の方々にその学習成果を発信していきたいと考え、実践を重ねてきました。

その中で、4・6年担当職員の学級で取り組んだ毎日の新聞学習が、研究テーマの実現にも着実な成果を上げてきています。

朝10分の短い学級活動の時間の中に組み入れたスピーチタイムで仲間に新聞記事紹介をすることは、新聞全体をさっと見て自分の興味関心のある記事を探す力・読んで簡単に感想をまとめる力・みんなの前で発表する力を少しずつ向上させてきています。

特に6年生では、自分たちの総合的な学習のテーマや、「地域探検クラブ」など自分自身の学習テーマと関連した記事を見つけ、学習に生かすこともできるようになってきています。

また、低学年では、友だちの取り上げた記事を見ることで様々なことに興味関心を持ち始め、新聞を見ることの楽しみを見つけつつあります。

このように無理のない範囲での取り組みを重ねることの重要性がはっきりしてくるとともに、どの学級でも肩肘張らずに取り組んでいく方向性は見えてきています。今後もこの方向の学習のあり方を模索していきたいと考えております。

反面、今年度は、新聞（記事）を直接題材に取り上げ、じっくりと時間をかけて学習をしていく単元を設定できませんでした。

基礎基本となる学習に対する時間も十分に確保したい上に、本校ならではの特色ある学習題材（単元）や行事もかなりあり、それらに対しても時間をかけて取り組んできている現状では、これを精選し、新たな単元を導入することは困難であると感じていますが、新聞と今までの学習とを組み合わせ、さらに有効な単元となるような工夫を見つけ、学習を発展させていきたいと考えています。

2年生での実態にあるように、最近では新聞を取っていない家庭も微増してきています。逆に4・6年生ともなると、家庭のインターネット回線を使わせてもらえる子もいて、中には調べ学習をそれでやって来る子も各クラスで数人いるようになりました。このように家庭の環境により、日々の生活の中で触れる情報の量・質に無視できない格差が出てきており、情報の共通基盤がなくなりつつあるという感じもあります。

そのような中で、学級に新聞があり、それを少なくとも当番に当たった子が見て記事を選んで発表し、情報を共有していくということ、その記事が掲載されている新聞をみなが一緒に見るということで、その情報格差の解消・共通基盤の生成に一役買えるのではないかと感じた1年でした。

小学校の子どもたちが大人の読む新聞をそのまま利用するには、かなり大きな壁が存在するのも事実であり、特に低学年ではその傾向が強くなります。高学年でも、次々とむずかしい言葉がでてくる新聞を読むとすることは、かなりの労力を必要とします。もう少しやさしい、何種類かの子ども向け新聞が気軽に読めるような環境ができるといいと感じることもありました。

最後に、1年間、このような学習・研究の機会を与えていただき、本当にありがとうございました。